

Title	2000年以降のアーティスト活動の多様性とその変動による音楽活動モデルの変化について
Sub Title	The model of musician's and artist's activities has been changing since 2000
Author	三好, 孝徳(Miyoshi, Takanori) 中村, 伊知哉(Nakamura, Ichiya)
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2011
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	<p>インターネットやパソコン技術の進歩により、2000年以降のアーティスト/ミュージシャンの活動モデルは変化している。音楽楽曲はインターネットやP2Pを介して無料でダウンロードされ、違法に取引が盛んにされている。このままではアーティスト/ミュージシャンが生計を立てていた活動モデルが崩れさるだろう。近年では、ap bankやプラストビートといった、音楽に新しい価値を見出だす活動も盛んに行なわれている。本研究ではNPOによるイベントの開催を通して、アーティスト/ミュージシャンが今後、どのように音楽活動モデルを行なえば良いのか、音楽の新しい付加価値を見出だし、活動モデルを見出だしていく。</p> <p>研究活動内容としては、NPO法人TOKYO TOMORROWに参加し小規模・中規模の音楽ライブイベントを行い、アーティストが主体的に取るユーザーとの交流のモデルを検討する。特に注目すべき事はワークショップを基にした音楽ライブとのコラボレーションイベントであり、ワークショップ併催イベントの集客力や、新しい音楽活動モデルとして可能性が存在するか比較検討を行う。</p>
Notes	修士学位論文. 2011年度メディアデザイン学 第195号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002011-0195">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002011-0195</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文 2011年度（平成23年度）

『2000年以降のアーティスト活動の多様性とそ  
の変動による音楽活動モデルの変化について』

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

三好 孝徳

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に修士（メディアデザイン学）授与の要件として提出した修士論文である。

三好孝徳

指導教員

中村 伊知哉 教授 （主指導教員）

古川 享 教授 （副指導教員）

審査委員

中村 伊知哉 教授 （主査）

古川 享 教授 （副査）

加藤 朗 教授 （副査）

## 修士論文 2011年度（平成23年度）

### 『2000年以降のアーティスト活動の多様性とその変動による音楽活動モデルの変化について』

#### 論文要旨

インターネットやパソコン技術の進歩により、2000年以降のアーティスト／ミュージシャンの活動モデルは変化している。音楽楽曲はインターネットやP2Pを介して無料でダウンロードされ、違法に取引が盛んにされている。このままではアーティスト／ミュージシャンが生計を立てていた活動モデルが崩れさるだろう。近年では、ap bank やブラストビートといった、音楽に新しい価値を見出す活動も盛んに行なわれている。

本研究ではNPOによるイベントの開催を通して、アーティスト／ミュージシャンが今後、どのように音楽活動モデルを行なえば良いのか、音楽の新しい付加価値を見出し、活動モデルを見出だしていく。

研究活動内容としては、NPO法人TOKYO TOMORROWに参加し小規模・中規模の音楽ライブイベントを行い、アーティストが主体的に取るユーザーとの交流のモデルを検討する。特に注目すべき事はワークショップを基にした音楽ライブとのコラボレーションイベントであり、ワークショップ併催イベントの集客力や、新しい音楽活動モデルとして可能性が存在するか比較検討を行う。

キーワード

NPO、イベント、ワークショップ、ライブ

慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科

三好 孝徳

## Abstract of Master's Thesis Academic Year 2011

# 『The Model of Musician's and Artist's Activities Has Been Changing since 2000』

## Summary

The model of musicians and artists' activities has been changing since 2000 by the development of Internet Technology. Nowadays, a lot of music data was illegally uploaded and downloaded by many people who use online storage and P2P software. If this circumstance is continually going through the world, the musician's economical model will be broken. So, recently musicians / artists are making a new style or value of their activities like "ap bank" and "blastbeat". In this thesis, a few trials are described to motivate musicians and artists by introduction of new values of the music.

The activities for this thesis are that I took part in TOKYO TOMORROW, which is a NPO group. In the activities, we took place small and middle scale music live concerts for discovering artist's interchange model of music user.

From the activities, especially workshop, I compare and consider new possibility of music activities and attracting customers by holding collaboration event between workshop and music live concerts.

## Keywords

NPO, Events, Work Shop, LIVE

Keio University Graduate School of Media Design  
Takanori Miyoshi